

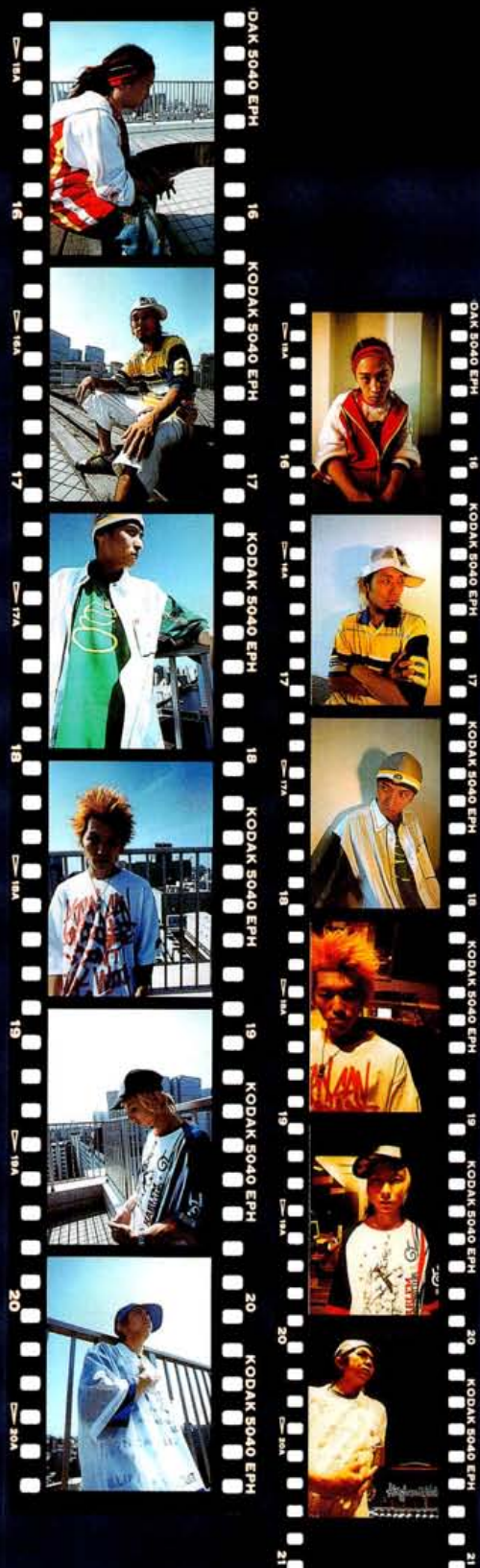
OUTSIDE SIGNAL

アウトサイド シグナル

The Real Face

バンドを始めてからわずか5年、インディーズデビューからわずか1年。メジャーデビューの日を迎えた京都出身のバンド。そのシンプルにして複雑な性格を問う。

取材・文/竹中 聡(本誌) 撮影/メルマリ



俗に言う、東男に京女 京都の男って何だ？

九州男児などとも俗に言うが、男女の別を問わず、ミュージックシーンにおいて、今求められている京都系とすれば彼らは期待はずれだ。C X系の朝の人気番組「めざましテレビ」に彼らのPVが紹介されたとき、コメンテーターは「骨太」という言葉を使った。ヴォーカルのサトシと、ギターでリーダーのヒロアキングを中心に結成、サトシは小6と中3で空手の日本一を経験している。一方のヒロアキングは高校卒業後、テパートに就職したのを皮切りに点々と職を変え、バイト先の居酒屋が始めた「焼き屋」をひとりでもやらせてくれ」と直談判に及びオーナーになったという気骨者。ちなみに店の名は「新鮮真味(しんせんまじみ)」。今年タイムリーでしょ？(笑)。

サトシは空手と高校を辞め、美容師を目指す。美容師学校の1年生の頃、まだ16歳、先輩がある日言った。「オマエに紹介したいヤツがいる。連れて行かれた先がた「焼き屋」だった。当時ヒロアキング22歳、歳の差6年を友人として紹介しようとは、余程会わせなかったのだから。ヒロアキングは言った。「まわりは年下ばかりやっつした。抵抗はなかったですね。店に集まってくる子たちには、常に「オマエは奴は呼んできてや」と言っていましたから。でも、他にも似たような奴はいっぱいいたけど、サトシが一番波長が合った。先輩の先見の明に、このバンドは感謝が堪えないだろう。

小難しいことは言わない 「モテたい」の一心

美容師予備軍のサトシと、た「焼き屋オーナー」のヒロアキング。彼らの行動原理は「モテたい」の一心。いい加減な程のシンプルス。「た「焼き屋」より稼いで夢がある仕事があるはずや」と思った。まだ若いというののもあったし、あまりにも高校生や中学生が溜まりすぎて、店までたどり着けない客もいたというくらいの人気店。思えばその頃既にモテていた。その時は「僕(サトシ)はた「焼き屋」目当てに「キヤーカー」言われてたんちゃうかな」と(笑)。

「一緒にバンドでもやりませんか?」言い出したのはサトシだった。だが言い出して、美容師を取るかヒロアキングとバンドの道を取るか、葛藤が無かったと言えは嘘になる。モテたい一心が生んだ重き「者」も、美容師学校を卒業する頃には気持ちも決まっていた。結果的に後者を取る。「資格は意地でも獲ろうと思っただけだね。やっぱり形として最後までやっつた。つてのは残した

かったから」。美容師免許を得るための国家試験の前日には、ライヴをやっていた。それで合格してのけた。やはり男である。

ノン・ジャンルという言葉 それすら蹴っ飛ばす

バンドと言っても「経験はゼロ(笑)。(サトシ・ヒロアキング)」。ウチにはギターがあったから「ギターならできるで。やったことはないけど」と(笑)。「ヒロアキング」。同じように「ベースならある」。ドラムなら叩いたことがある。「何にも楽器が無かったからヴォーカル(笑)。(サトシ)」。結成の逸話である。デビューシングルの歌詞に「グリーンティを聴いて育った」とあるものの、音楽的な下地は全くない。とりあえずモテるために、流行ってる音楽をやろうぜ。それが合い言葉だった。ミュージシャンとして「コレだけは真こうと思う」というものもない。音楽って、感性に訴えて、感性で演るものだと思うんですよ。で、感性には日々の表情があつて、それは常に変わるものだから。「コレ」と決めてしまつて、その感性に蓋をしてしまいたくない(サトシ)。元になるものがないから、逆に自分たちで必至に元になるものを作ってきたのだと(笑)。

ロックという言葉が意味を成さず、新しいジャンル名の発明合戦が繰り返られる現在のミュージックシーン。「ピートロック」「オルタナティブロック」... 数々のジャンル名が著しい消費に風化し、いつしか忘れられていく。そして誰もが諦めたように「ノン・ジャンル」を叫ぶ。だがある意味、彼らにはノン・ジャンルという言葉すら意味を成さない。何しろ明日になれば選言は演歌かもしれないのだ。「おつ、氷川きよし、格好いいや」と、それがモテると思つたならば、

だからどうしたい、というのがない。バンドでさえあれば良いのだろうか? 「それもどうかな。例えば僕がヴォーカルではなく、DJでもいいし、ヴォーカルであることに誇りはあるし、声を出して伝えることも大事だと思ってるけど、固執はない。もっと余計なこともやってみたい(サトシ)。そう言い切れる。

必ずハッピーエンド 例えバラードでも

これほど終着点や目標を聞き辛い相手もない。しまいには「野球の球を買いたい(笑)。(ヒロアキング)」と言いつつ始末だ。「目標って、よく聞かれるんですけど困るんです。オリコン1位も紅白も、今のところ目標ではあるけど、なつてみないと解らないし、そもそも最終目標なんて決めない方がいいとも思う(サトシ)。「決

まつてたらそこへだけ向かってしまふ。となつた時点でやりたいことをやるっていう事に反してしまふ。最終目標が決まった上でのやりたいことなんて、ただの遠回り。じゃなくて、その時その時にやりたいことがある方向だけを向いていたい(ヒロアキング)。潔いほどの無節操はいっそも気持ちいい。

しかし行動原理はどうあれ、バンドとして、自分たちが作った曲をメジャーレールから世に出し、仕事として続ける以上は自分たちの商品に対して説明しなければならぬ。それがプロの責任というものだ。今現在の瞬間を切り取った場合、聴いた人にどうなつて欲しいのか。走り出して欲しいのか、世をはかなくて欲しいのか。彼らはどう思っているのか。「笑って欲しいですね(サトシ)。バラードをやるにしても、もっとクラシジなことをやるにしても、ネガティブなものはやらないと言ふ。楽曲がいかにマイナーでも、ポジティブだろうと、新たなメンバーが、このバンドの古いバラードを聴いて泣いた。でも最後は、切ない気持ちやけど頑張ろうと思えた」と証言する。バラードでも、最後はハッピーエンド。バンドエンドの曲は作ることは思わない。

信号から外れれば そこには自由な道がある

楽器を持った時点で5人が格好良いと言った。プレイが上手なつて10人が格好良いと言った。メジャーデビューした今後、その数はまた増えるだろう。オリコンで1位を獲得、また倍増するだろう。どれだけモテたら満足するの? 「それが解らないからやっつてるんでしょね(ヒロアキング)。

自分たちに予想できる未来に興味はない。これからオレら、どうなるんやろう?。怖いぐらいの自分たちへの期待と、期待できるだけの自分たちのポテンシャル。湧き出る泉の底が見えないうちは続けていける。次の高みから見る景色は、また予想もできない「これからを生み出していく。またモテたい。またモテたい。結局、そうして果てなく「次」が生まれる。そのうち、「もうええわ」と思うかも。その時はプロ野球の球団を、オーナーとして買つてほしい(笑)。その頃はものすこい金持つてるでしょうから(笑)。(ヒロアキング)。

信号待ちの列。美容師見習いとた「焼き屋」オーナーは、その列に加わってはいけなかつた。信号待ちの列から外れるべきだ。自分たちにセラゾンには必要ない。さて彼らは無事に道を渡れるだろうか。きつと上手く抜けていけたら。好きな方角だけを向き続ける限り、彼らが歩く道には、邪魔する車の列もないだろうから。

OUTSIDE SIGNAL (アウトサイド シグナル)

'98年、リーダーでGのHiroking (写真右から2番目) と、Vo.Satoshi (写真中央) を中心に結成。Dr.Wada (写真左から2番目) を除いて、G&ChoのMart (写真右端)、BのShbuya (写真左端)、新たに加入したMCのRIQ (写真左から3番目) は全員京都出身。「京都系最後の大物」と称され、独自のイベント「インフルエンス」では記録的な動員数を残し、'03年8月にドロップした「侍のロックンロール」が地元京都はもちろん、タワーレコードインディーズ全店4位を獲得、TOP10内に7週連続チャートインの快挙を成し遂げるなど、見事なチャートアクションを見せ、インディーズデビューからわずか1年でメジャーデビュー。

Information

「ガンバレって歌 (feat.RIQ)」 1260円 (税込) WARNER MUSIC JAPAN

メジャーデビュー曲となるタイトルの「頑張れよ」は、上から下を見て「頑張れよ」でも、下から上を見て「頑張って」でもない。「言いつばなしじゃないんですよ。自分たちも頑張るから、これを聴いて頑張ろうと思ってくれた人と、同じ目線で一緒に頑張っていきたい。そんな意味です(サトシ)」。7月7日リリースで発売中。11月初旬にはセカンドマキシシングルをリリース予定。http://www.outsidesignal.com

